

名城大生の胃袋を支えて40年
校友会館2階喫茶室「シャトー」の
歴史と味をレポートします。

シャトーとともに

40年

校友会館2階にある喫茶室「シャトー」の経営者は松井紀之さん(70)。奥さんの里恵さん、隣の職員ラウンジを担当する長女のめぐみさんの家族3人で、学生、職員たちに愛され続けてきました。

校友会館のオープンには1968(昭和43)年10月。当時は1階が学生食堂で、2階には購買部、丸善、理髪店、旅行代理店、そして喫茶室「シャトー」が店を構え、3階は校友会事務局、会議室、宿泊施設でした。松井さん夫婦がシャトーの経営を始めたのは1974(昭和49)年からです。今年でちょうど40年になります。この間、テナント移動があり現在のスタイルになりました。



ずらりと並んだたくさんのマンガ本

40年前に松井さん夫婦がシャトーを引き継いだ当時のメニューはほとんど今と変わらないそうです。カレー、ピラフ、焼きそば、スパゲティ、サンドウィッチ。大学周辺には学生アパートが多く、11時までのモーニングセットは人気でした。コーヒーにパンと軽めの野菜に目玉焼きがついて190円。「アパート住まいの学生たちにはありがたかったようで、いつも満員でした」と松井さん。教室が近い理工学部やスポーツ系クラブの男子学生のためり場的な雰囲気もありました。「昔の学生は余裕があるというか悠然としていましたね。朝9時から夕方5時近くまで居座る方もいましたよ」。

学生の注文で生まれた

カレー

カレーピラフが誕生したのは、1984(昭和59)年ごろです。機械工学科、交通機械学科の学生たちから「ピラフにカレーをかけて」とリクエストがあったのがきっかけでした。

「言われるままに、平たい皿にのったピラフにカレーをかけました。料金なんか関係なかった。うまい、うまいとだんだんと広まっていききました」とる里恵さん。カロリー消費量の多いスポーツ系の学生にはとりわけ人気だったようです。ただ、ピラフ皿にカレーをかけると、カレーがあふれたりして、見栄えがよくありませんでした。やがて深さがあるカレー皿を利用した盛り付けに改善された、現在のスタイルになり、「カレー」の愛称が定着していきました。当初380円だった値段は間もなく410円になりましたがそれ以来据え置かれたままです。

カレーの人気は教員にも広まっていきました。隣の職員ラウンジのランチタイムを利用する教員たちからも、カレーの香りに誘われるように、めぐみさんに頼んでシャトーへのカレー注文が相次ぐようになりました。里恵さんは「ランチメニューに鶏肉とか苦手メニューがあると、決まってカレーを注文される先生が目立ちました」と話します。土曜日を「カレーの日」と決め、シャトーを訪れ、カレーを食べながら昔物の漫画を楽しむ先生の先生もいるそうです。



開業40年を迎えた「シャトー」の松井さん一家

辛口カレーのごくとピラフのうま味をコラボ
理工学部生のアイデアから誕生して30年



校友会館2階喫茶室「シャトー」の
人気メニュー「カレー」



シャトーのメニュー

カレーピラフ・オムカレー 410円 大盛り490円
 ピラフ・スパゲティ・やきそば・やきうどん・カレーライス 360円 大盛り460円
 コーヒー・紅茶・ミルク 210円
 サンドウィッチ 410円
 トースト 360円
 カツ丼(午後5時から) 490円(大盛りも)



卒業生が書いた 小説にも登場

アスリートの 味方

シャトーはテレビや情報誌などでもしばしば紹介されていますが、小説にも登場しました。4年前、カレピーを食べに東京から訪れた男性がいました。明らかに名城大学の太白キャンパスを舞台にしたと思われる「ぼっちーズ」(人間人間著、2010年角川グループパブリッシング)という小説に、カレピーが登場したからです。白衣姿の理工学部環境創造学科の女子学生に誘われて初めてシャトーを訪れた経営学部1年生の男子学生。シャトーは「理工学部御用達の店」と紹介され、「カレピーピラフというだけあって香辛料の匂いが湯気と共に漂う」「うおーと辛さを水で流す。噎せる」など、食べた経験があるからこそその描写が続きます。

「本を読んで食べてみたくなったから」という30歳代らしい男性の話を聞いた松井さんたちは早速、「ぼっちーズ」を買って読んでみました。「作者の経歴は載っていませんでしたが、間違いなく名城大学の卒業生ですね」。る里恵さんはそう断定しました。

シャトーには3年前、新メニュー「オムカレー」が登場。最近ではカレピーと並ぶ人気メニューです。松井さん、る里恵さん、めぐみさんがテレビ番組をヒントにメニュー化しました。カレピーの上ののったふわふわのオムレットは予想通り人気メニューになりました。すっかりファンになった理工学部の教授のように、隣の職員ラウンジから「ご飯少な目で卵を多くして」と注文をしてくる教員もいるほどです。

シャトーは何と言ってもアスリート系学生たちには人気です。注目の8割は大盛り。カレピー大盛りにタマゴサンド大盛り(裏メニュー)を平らげるラガーもいます。ラグビー部の記念誌に「私の体の80%はカレピーとタマゴでできていると言っても過言ではありません」と書き込んだ卒業生もいます。

普通盛りでもボリュームがありますが、大盛りとなると結構な量です。「2升炊きの電気釜だと用意できるピラフ大盛りが7人分。普通盛りなら21人分に相当します」。カレピー、オムカレーの普通盛りは410円。大盛りは3倍のボリュームですが値段は490円です。「ドラゴンズに入団した清水、英智、山内、森越もみんなここに通いました」と松井さん。野球部員、ラグビー部員、アメフト部員などの新生たちには、松井さん一家に初めて自分の名前を呼んでもらえることが大きな励みになっているそうです。日曜日に行われるラグビー部、野球部の試合には応援に駆けつける松井さん夫婦。ラグビー部のホームページには松井さん夫婦の写真とともに感謝の言葉が書き込まれていました。「リーグ戦が始まると毎週、バナナやアミノバイタルを差し入れてくれる、名城大学職員ラウンジ・喫茶シャトーの松井ご夫妻です。いつもお心遣いありがとうございます。この場を借りて改めて御礼申し上げます」。



ドラゴンズに入団した野球部卒業生から贈られた色紙



カレーピラフに並んで人気のオムカレー



Real Report



学生たちでにぎわう昼食時